

東京中小企業家同友会 文京支部ビジョンシート（2017年度）

スローガン **広げよう「経営に向き合う」仲間の輪**

1 支部をとりまく環境

現在の会員数	55名	区内事業所数	〇社	区内組織率	〇%
地域の産業等の特徴・地域において活用可能な集積や資源（施策や施設、組織、学術・研究機関など）					
① 明治以降印刷製本業、医療関連産業、旅館業等の地場産業がある。近年では教育・学習支援をはじめとする都市型産業が増加している。また、染色・木工などの伝統技術が職人の手で守られている。					
② 江戸時代は学問の府として湯島聖堂、昌平坂学問所があり、現在は文教地区として東京大学をはじめとする19の大学が集中している。					
③ 六義園、小石川後楽園などの文化財庭園や観光資源として講道館、東京ドームシティなどがある。					

2 支部活動の到達点を分析(別紙アンケートをもとに五段階評価)

1 「例会づくり」の進捗状況	■	■	■	□	□
2 「経営指針」の進捗状況	■	■	■	□	□
3 「幹事会」の進捗状況	■	■	■	□	□
4 同友会全体との連動	■	■	■	□	□
5 「会員増強」の進捗状況	■	■	□	□	□
6 「会員フォロー」の進捗状況	■	■	■	□	□
7 「地域と政策」の進捗状況	■	■	■	□	□
8 「支部間連携の」進捗状況	■	■	■	□	□

3 支部会員数の推移（2017年度以降は見通しで記入のこと）

年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
会員数	61名	54名	54名	60名	66名	73名	80名
入会数	3名	4名	4名	8名	8名	10名	10名

4 支部の過去5年間の活動を検証する

過去5年間の取り組みで得られた前進点

- ① 若手会員が幹事会をけん引し、部会も定期的に関われ支部活動が充実してきた。
- ② 支部として定着活動に取り組んでおり退会率が減少してきた。また、退会・休会者へ継続的に例会案内を送ったり交流会へ誘っている。その結果一人再入会するという成果が出た。
- ③ 今まで文京区内の5大学と「地域と大学」例会を開催し、区内19の大学とのパイプができつつある。
- ④ 文京区や女性部、共同求人委員会などの後援をいただいたり、中野・杉並支部や倫理法人会などの他団体との合同例会を行った結果、例会の集客力が上がった。

過去5年間の取り組みで今後改善すべき課題

- ① 支部メンバーに占める若手会員は増えたが女性会員の入会は停滞しているため、今後女性経営者との接点をつかむ例会や交流会を積極的に行う必要がある。
- ② 例会など会外の参加者が少ないために、案内の外部発信機能を充実することや、幹事一人一人が例会チラシを携え会外の参加の案内と呼びかけを地道に行う。
- ③ 定期的な会員訪問を行い、会員同士の接点とともに経営に対する課題の共有を行う。

5 本年度の支部方針のポイントと活動の理念

- ① 文京支部の特徴であるアカデミックな支部活動を行う。
- ② 若手会員が参加しやすいような環境づくりと世代を超えた交流ができる場を作り出す。
- ③ 区内19大学の教授・学生との情報交換、更には行政や他の経済団体との交流を行い、同友会の存在価値を外部に発信していく。
- ④ 会員一人一人が自社の経営に向き合い、自らの課題と解決に向かう意識と行動を行う。
- ⑤ 自らの辞書の1ページとなる新たな仲間を現況から10%増やし、60名会勢とする。

6 本年度の活動計画のポイント(短期課題)

- ① 経営指針を中心とする経営体験例会を行う。
- ② グループ長の進化とグループ討論の充実を行い、例会を盛り上げる。
- ③ 退会会員に対する例会や交流会参加を呼びかけ会員復帰につなげる。
- ④ 他支部に複数の文京支部会員が訪問し、東京同友会全体での交流を深める。
- ⑤ 文京区版「エコノミックガーデニング」に向けた活動を行う。
- ⑥ 中小企業振興基本条例制定に向けた区議との意見交換を行う。
- ⑦ 行政との結びつきを深め、例会などの後援を取り付け積極的な外部発信を行う。
- ⑧ 理念検討会により毎年4名の経営理念を作成し、成文化セミナーへの参加者を増やす。
- ⑨ 文京経営者大学の立ち上げ準備活動を行う。
- ⑩ ビジネス交流会で会外との接点をもち例会案内などを広める。
- ⑪ 経営課題を話し合う会、BNK538、おやじの会などの委員会に積極的に参加する。

7 支部の中長期の課題とビジョン

中期課題(5ヵ年)

- ① 6年後には100名会員を達成する
- ② 文京版エコノミックガーデニングに行政、議会、大学、金融、地域団体を巻き込む。
- ③ 文京区産業振興基本条例、文京区地域振興会議の実現を目指す。
- ④ 会員が良い会社になるための取り組みをし、継続的黒字企業にすることにより、他の経営者が一緒に活動したい(入会したい)という触媒機能を果たす。
- ⑤ 平成30年より文京経営者大学を連続3講義行う。

長期課題(5ヵ年以上)

- ① 文京経営者大学の定着を図り、同友会での学びで企業が発展し社会貢献できる体制をつくる。
- ② 文京区内で同友会の存在価値を示すために200名以上の会員を目指す。
- ③ 支部会員全員が経営指針を作成し、実践している。

8 外部連携の課題

- ① 西部協議会の活動に参加し、西部協に所属する各支部との連携を強化する。
- ② 他支部の優れた活動や実践を柔軟に取り入れる。
- ③ 文京区内の他団体との積極的な交流を行うことにより同友会活動を広める。